

明治・大正時代に魅せられて



多くの人々が琴参電車を利用していました。  
写真提供/琴参バス株式会社



普通寺赤門前駅の姿  
写真提供/琴参バス株式会社

### 大正から昭和の激動期に 走っていた電車

琴平参宮電鉄によって、普通寺から丸亀まで電車が開通したのは、大正11(1922)年のこと。同年11月に行われた陸軍特別大演習に、後の昭和天皇、当時の皇太子が<sup>ぎょうこう</sup>行幸されることになり、この一大行事に合わせて開通しました。

当初の駅は現在の普通寺駅の駐輪場のあたりにありましたが、大正12(1923)年に琴平まで延長することになり、片原町を<sup>ぎょうこう</sup>通って琴平に向かう案などが出ました。ところが、片原町には騎兵隊があつて馬が暴れるという理由で、本郷通りを<sup>ぎょうこう</sup>通って赤門前から琴平に向かうことになったそうです。大正13(1924)年には普通寺・多度津間、昭和3(1928)年には丸亀・坂出間と次々に延長。市民の足として、また参拝鉄道として人気を呼びました。

赤門筋と本郷通りの交差点に、普通寺赤門前駅が置かれていました。その昔は本郷通りに車庫があり、赤門前から市街地の中心部を南へ進み、現在の土讃線に併行して琴平まで電車が走りました。丸亀・琴平方面は同じプラットフォームでしたが、多度津行きだけは別の乗り場がありピストン運転をしていたとのこと。当初は定員40名ほどの箱電車でした

が、太平洋戦争の勃発とともに武運長久の祈願参拝客や軍隊への入隊、慰問の家族が押し寄せ、うなぎ上りに利用客が増えました。しかし、戦後は道路が整備され路線バスが普及したため、昭和38(1963)年、お別れの花電車を最後に廃止されました。



普通寺赤門前駅周辺の現在の様子



- 普通寺町一丁目・七丁目
- JR普通寺駅から徒歩約13分。赤門筋入口。

明治・大正時代に魅せられて